

# Wireless Control System ( WCS ) のトラブルシューティングに関する FAQ

## 目次

### [概要](#)

### [WCS のトラブルシューティングに関する FAQ](#)

### [関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Wireless Control System ( WCS ) のトラブルシューティングについて、よく寄せられる質問とその答えを示します。

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## WCS のトラブルシューティングに関する FAQ

### Q. Cisco WCS を使用するための最小要件を教えてください。

A. Cisco WCS をインストールするための最小要件は、次のとおりです。

- **WCS バージョン 2.0** : Cisco WCS ソフトウェアは、次の要件を満たすワークステーション/サーバクラスの WCS サーバで稼働します。要件は、Pentium 4、1 GB がインストールされるすべての重要なおよび Security ウィンドウ アップデートと Windows<sup>®</sup> 2000/SP4 か Windows 2003 を実行するより多くの RAM と 2.4 GHz またはファースト。また、Web ブラウザとして Microsoft Internet Explorer ( IE ) 6.0/SP 1 以降が必要です。
- **WCS バージョン 2.1** : Cisco WCS ソフトウェアは、次の要件を満たすワークステーション/サーバクラスの WCS サーバで稼働します。要件は、Pentium 4、2.4 GHz 以上、1 GB 以上の RAM、Windows 2000/SP4 ( Windows の重要な更新プログラムとセキュリティ更新プログラムがすべてインストールされていること ) です。また、Web ブラウザとして IE 6.0/SP 1 以降が必要です。
- **WCS バージョン 2.2** : Cisco WCS ソフトウェアは、次の要件を満たすワークステーション/サーバクラスのシステムで稼働します。要件は、Pentium 4、2.4 GHz 以上、1 GB 以上の RAM です。サポート対象のオペレーティング システムは、次のとおりです。インストールされるすべての重要なおよび Security ウィンドウ アップデートとの Windows 2000 /SP4 か Windows 2003。Linux Red Hat<sup>®</sup> 企業 Linux ES バージョン 3 はサポートされます。また、Cisco WCS の Web インターフェイスとして IE 6.0/SP1 以降が必要です。
- **WCS バージョン 3.0** : Cisco WCS は、次の要件を満たすワークステーション/サーバクラスのシステムで稼働します。Cisco 1000 シリーズ lightweight アクセス ポイントの数が 500 個までの場合 : 2.4 GHz Pentium、1 GB RAM Cisco 1000 シリーズ lightweight アクセス ポイントの数が 500 個を超える場合 : デュアル プロセッサ ( それぞれ 2.4 GHz 以上 )、最小 2 GB

の RAM20 GB のハード ドライブサポート対象のオペレーティング システムは、次のとおりです。Red Hat Enterprise Linux ES リリース 3.0/Windows 2000/SP4 以降、または Windows 2003/SP1 以降 ( Windows の重要な更新プログラムとセキュリティ更新プログラムがすべてインストールされていること )

- WCS バージョン 4.0 : バージョン 4.0 の WCS をインストールするための最小要件については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 4.0](#)』の「[システム要件](#)」セクションを参照してください。
- WCS バージョン 4.1 : バージョン 4.1 の WCS をインストールするための最小要件については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 4.1](#)』の「[システム要件](#)」セクションを参照してください。
- WCS バージョン 4.2 : バージョン 4.2 の WCS をインストールするための最小要件については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 4.2](#)』の「[システム要件](#)」セクションを参照してください。
- WCS バージョン 5.0 : バージョン 5.0 の WCS をインストールするための最小要件については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 5.0](#)』の「[システム要件](#)」セクションを参照してください。
- WCS バージョン 5.1 : バージョン 5.1 の WCS をインストールするための最小要件については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 5.1](#)』の「[システム要件](#)」セクションを参照してください。
- WCS バージョン 5.2 : バージョン 5.2 の WCS をインストールするための最小要件については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 5.2](#)』の「[システム要件](#)」セクションを参照してください。
- WCS バージョン 6.0 : バージョン 6.0 の WCS をインストールするための最小要件については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 6.0](#)』の「[システム要件](#)」セクションを参照してください。

## Q. WCS の 3 つの主要なコンポーネントは何ですか。

A. WCS は 3 つの主要なコンポーネントで構成されています。これらは、Solid データベース エンジン、Apache Web サーバ エンジン、Java ベースの SNMP エンジンです。WCS には独自バージョンの Java が内蔵されているので、WCS を稼働させるマシンに Java をインストールする必要はありません。インストールすると Java の不一致が生じます。3 つのコンポーネントすべてが連携することで、完全な WCS 機能が提供されます。Apache Web サーバは、WCS の GUI であり、ユーザに Web インターフェイスを提供します。WCS の SNMP エンジンは WLC との通信に使用されます。SNMP エンジンは、WCS への設定の送信、ログの収集、WLC からのトラップに役立ちます。このエンジンは WLC とのあらゆる通信に SNMP プロトコルを使用します。

WCS の 3 つの主要なコンポーネントすべてが稼働しているかどうかと、その状態を確認するには、[Start] > [Programs] > [WCS] > [Status] の順にクリックします。

## Q. WCS のインストールに失敗しました。どのような原因が考えられますか。

A. WCS バージョン 2.2 またはそれ以前のバージョンをインストールしようとしたのであれば、マシンにインストールされていた Java バージョンとの不適合によってインストールが失敗した可能性があります。この問題を解決するには、Windows の [Add/Remove programs] で古い Java プログラムを削除し、再度 WCS インストーラを実行します。WCS には独自の Java バージョンが含まれています。また、グラフィック機能のないリモート マシンやリモート ターミナルから、PCAnywhere を使用してインストーラを実行しないでください。

WCS バージョン 3.0 以降をインストールする場合は、**InstallAnywhere** を使用します。インストーラに問題がある場合は、デバッグ モードでインストーラを起動してください。インストーラのアイコンをダブルクリックして、コントロール キーを押したままにすると、コマンド ウィンドウが開いてデバッグ ステートメントのログが出力されます。このデバッグは、問題の根本原因のトラブルシューティングに使用できます。

**Q. WCS をインストールした直後に、ブラウザを起動しても接続できませんでした。これは、なぜですか。**

A. インストール後にシステムがリブートされたかどうか、つまり、サービスとしてインストールされたかどうかを確認します。

**Q. どうすれば WCS のログを取得できますか。**

A. 2.2 より前のリリースでは、ユーザはディレクトリ `<WCS Installation Dir>\webnms\logs` を zip する必要があります。

2.2 以降のリリースでは、WCS の [Admin-] > [Logging] セクションで、[Download Logs] セクションの [Download] ボタンを選択します。

WCS の [Admin] > [Logging] セクションは、問題についての情報を集めるために役立ちます。[Message Level] を [Trace] に設定し、問題を再現してからログを収集してください。ログの収集後、[Message Level] を [Error] に戻します。これは、[Trace] のままにするとパフォーマンスが低下するためです。

**Q. WCS を起動できません。どのような原因が考えられますか。**

A. インストールは正常に完了したと想定します。

- WCS をサービスとしてインストールした場合は、マシンを再起動する必要があります。
- スクリプトが bin ディレクトリから手動で実行されていないか確認します。bin ディレクトリから手動でスクリプトを実行することはできません。Windows の WCS プログラム メニューのリンクを使用するか、Linux `<Install Dir>` (つまり、`/usr/local/bin/WCS22/StartWCSServer`) のスクリプトを使用する必要があります。
- 使用ポートが競合していると、WCS を起動できず、「Failed to start WCS Server. ( WCS サーバを起動できません )」という簡単なエラー メッセージが表示されます。WCS では、マシンで次のポートが使用可能である必要があります。 \*Checking for Port 1299

```
availability... OK
*Checking for Port 80 availability... OK
*Checking for Port 443 availability... OK
*Checking for Port 8009 availability... OK
*Checking for Port 8456 availability... OK
*Checking for Port 8457 availability... OK
*Checking for Port 8005 availability... OK
*Checking for UDP Port 69 availability... OK
*Checking for Port 21 availability... OK
```

これらのポートで他のアプリケーション、たとえば、Web サーバ ( 80 )、TFTP サーバ ( 69 )、FTP サーバ ( 21 ) などが稼働していないことを確認してください。linux に WCS をインストールした場合は、`WCS/webnms/logs/wcs-0-0.log` で競合しているポートがないか確認します。Windows ベースの WCS の場合は、DOS のウィンドウから `netstat -a` を実行すれば、使用中のリスニング ポートを確認できます。競合している場合は、競合アプリケーション

ョンをシャットダウンしてから WCS を再起動してください。注: Linux では、`netstat -nlp` を入力します。タスク マネージャで、該当する PID を表示し、WCS に必要なポートを使用しているプロセスを停止します。

- データベースが壊れていると WCS は起動しません。この場合、データベースの再初期化や復元によって問題は解決されます。データベースを再初期化するには、WCS インストールディレクトリに移動して、コマンド プロンプトから `dbadmin.bat reinitdb` コマンドを実行します。
- `<WCS Installation Dir>\webnms\logs` からログ ファイルを収集します。これらのログ ファイルは、問題の根本原因を特定するために役立ちます。
- Windows SNMP トラップ サービスがサーバでアクティブになっているかどうか確認します。このサービスは WCS に必要なポート 162 を使用するので、無効にしてください。WCS が使用するポート リストの詳細については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーションガイド、リリース 5.2](#)』の「[前提条件](#)」セクションを参照してください。

**Q. WCS はインストールされましたが、Windows の [Start] メニューに該当するプログラム グループが表示されません。これは、なぜですか。**

A. これは、ユーザが WCS をサービスとしてインストールした際に使用したものと異なるユーザ アカウントでログオンしたためと考えられます。正しい Windows アカウントでログオンするようにしてください。

**Q. WCS のライセンスについては、どこを見ればわかりますか。**

A. ライセンスは、サポートするアクセス ポイントの数と Cisco WCS オプション ( Base または Location ) によって異なるので、ご使用の環境に応じたライセンスを購入する必要があります。WCS のライセンスの詳細については、『[Cisco Wireless Control System \( WCS \) のライセンスおよび発注ガイド](#)』を参照してください。

**Q. WCS で管理できる LAP の数はいくつですか。**

A. WCS バージョン 4.0 では、1 つの Cisco WCS で最大 3000 の Cisco Aironet lightweight アクセス ポイントをサポートできます。また、1 つのワイヤレス ネットワークに複数の Cisco WCS システムを配置することが可能です。

注: WCS に追加されたアクセス ポイントは、手動で WCS から削除されるまで、上記の数に含まれます。

**Q. 左下隅にアラーム ダッシュボードが表示されません。これは、なぜですか。**

A. まず、WCS のサポート対象ブラウザを使用していることを確認してください。Cisco WCS バージョン 6.0 を使用している場合、Cisco WCS のユーザ インターフェイスには、Internet Explorer 6.0/SP1、Internet Explorer 7.0 ( 9.0.X 以降の Flash プラグイン )、または Mozilla Firefox 2 もしくは 3 が必要です。最適なパフォーマンスを得るには、Mozilla Firefox 3 の使用を推奨します。次に、IE ブラウザに Macromedia Flash がインストールされていることを確認します。この Flash プレーヤーは Macromedia の Web サイトからダウンロードできます。通常は、ブラウザを通じてこのソフトウェアのインストールを指示するメッセージが表示されますが、何らかの原因でダイアログがキャンセルされた可能性もあります。

注: Flash が適切にインストールされていない場合は、他のグラフも正常に表示されません。

**Q. Cisco WCS がトラップを受信しません。どのような原因が考えられますか。**

A. 次の事項を確認してください。

- WCS マシンのポート UDP 169 (トラップ レシーバ) がファイアウォールでブロックされていないことを確認します。
- ネットワーク上にトラップ用のトラフィック ルールがあるかどうかを確認します。
- WCS にすでに追加されている、WLC の Web インターフェイスを開きます。[Management] > [Trap Recipients] に移動します。このリストに、WCS サーバの IP アドレスが表示されていることを確認します。

アドレスがあれば、同じ画面の [Trap Logs] を開きます。その WCS アドレスにログが送信されていないかどうかを確認します。ログがあればトラップは送信されていますが、何か別の原因でトラップがブロックされています。

[Trap Recipients] に WCS アドレスがなければ、WLC 検出時に追加できないと考えられます。書き込み許可の権限を含む SNMP コミュニティで WLC を追加したかどうかを確認します。ここで、[WCS Templates] > [Management] > [Trap Receivers] に移動し、WCS アドレスのテンプレートを WLC に適用します。

**Q. WCS はアラームをいくつ保持できますか。また、それらのアラームはいつ消去されますか。各アラームの平均的なサイズも教えてください。**

A. WCS はシステム内に最新のイベント 40,000 件を保持できます。これらは数日後に消去されます。各イベントまたはアラームの平均的なサイズは 1000 バイトです。

**Q. WCS のアラーム機能の変更方法を教えてください。また、アラームを長期間保持することはできますか。**

A. <WCS\_INSTALL\_DIR>/webnms/conf フォルダに、NmsProcessesBE.conf というファイルがあります。このファイル内のパラメータ CLEAN\_EVENT\_INTERVAL (デフォルト値は 7 日間) と、パラメータ EVENT\_WINDOW\_SIZE (デフォルト値は 40,000) を変更します。変更後、サーバを停止して再起動する必要があります。

**Q. WCS データベースの管理用コマンドのリストが掲載されたドキュメントはありますか。**

A. WCS データベースを管理するには、bin ディレクトリの WCS インストール ディレクトリに移動し、コマンドプロンプトから dbadmin.bat コマンドを使用します。データベースの管理方法の詳細については、「[メンテナンス作業の実施](#)」を参照してください。

**Q. WCS 内のクライアント数が、ネットワーク上の実際のクライアント数と異なっています。これは、なぜですか。**

A. クライアント数は 15 分ごとに計算されます。前回のポーリング サイクル以降に、現在のクライアント数と計算値の不一致が生じる可能性があります。

**Q. サイド パネルやトップ パネルを含めずに [Map] ページまたはその他のページを印刷できますか。**

A. いいえ。ブラウザの印刷ボタンでは、このような印刷を実行できません。ただし、WCS の Web ページのスクリーン ショットを撮り、不要部分をカットして、イメージとして印刷することは可能です。

**Q. プロポーザルの生成時にメモリ不足エラーが発生しました。これは、なぜですか。**

A. フロアプラン イメージ ファイルのサイズが 1 MB 未満であることを確認します。それがそれより大きい場合、ペンキ<sup>®</sup> または Photoshop<sup>®</sup> のイメージ ファイルを編集し、1 MB より少しに解像度を減らし、床 > Edit ページに行き、この新しい、低分解能イメージをインポートして下さい。このようにしてプロポーザルを再生成して下さい。

**Q. 壁があると、ヒートマップの計算に時間がかかります。これは、なぜですか。**

A. ヒートマップの計算時間は AP 数と壁の数に比例して長くなります。壁の数が 400 の場合、壁の数が 40 の場合に比べて 10 倍の計算時間がかかります。

注: 壁はユーザ自身で描画して下さい。以前の Floor Plan Editor ( FPE ) の壁自動検出機能は使用しないようにします。

新しいバージョンでは Flash ベースの FPE が WCS 内に統合されています。この FPE には壁の自動検出機能はないので、手動で壁を描く必要があります。また、壁の数はできる限り少なくして下さい。200 ~ 300 未満が最適です。

**Q. 古い FPE ファイルを WCS バージョン 3.0 にインポートして、新しい Flash エディタで編集できますか。**

A. はい、できます。まず、WCS でフロアを作成してから、[Edit] > [Floor] に移動し、レガシー FPE ファイルをインポートします。インポートされると、壁が新しいフォーマットに変換され、新しい Flash エディタに表示されます。

**Q. Flash エディタの壁を WCS バージョン 2.2 にインポートできるようにするため、WCS バージョン 3.0 で古い FPE ファイルに変換できますか。**

A. いいえ、できません。WCS バージョン 2.2 を使用する場合は、古い FPE を使用して壁を描き、FPE ファイルを生成する必要があります。

**Q. インポートできるフロアプランの最大サイズを教えてください。**

A. WCS には現在サイズ制限はありません。バージョン 2.2 より前は、1750 X 1750 フィートでした。FPE またはマップ エディタは、サイズが大きいと問題が生じる可能性があります。このため、フロアプランは 1 MB 以下にすることを推奨します。

**Q. WCS バージョン 2.2 で、ブラウザの [Back] ボタンが機能しません。以前は機能していました。なぜ今は機能しないのですか。**

A. これは、定期的なアラーム リフレッシュが原因です。間隔は現在 15 秒に設定されています ( 以前は 5 分でした )。15 秒後にアラーム パネルがリフレッシュされると、アラーム リフレッシュによってブラウザの履歴が上書きされます。WCS のページに移動後、15 秒以内であればブ

ラウザの [Back] ボタンが機能します。

定期的なアラーム リフレッシュの間隔は設定可能です。

1. 次のファイルを開きます。 <Install Dir>\webnms\webacs\WEB-INF\classes\com\bsn\webui\resources\AlarmControlResources.properties
2. このファイルをメモ帳アプリケーションで開くと、アラーム制御の設定パラメータが AlarmSummaryRefreshIntervallnSecs=15 として表示されます。
3. 値をデフォルト値の 15 から変更します (前のバージョンでは 300 でした)。
4. サーバを再起動します。

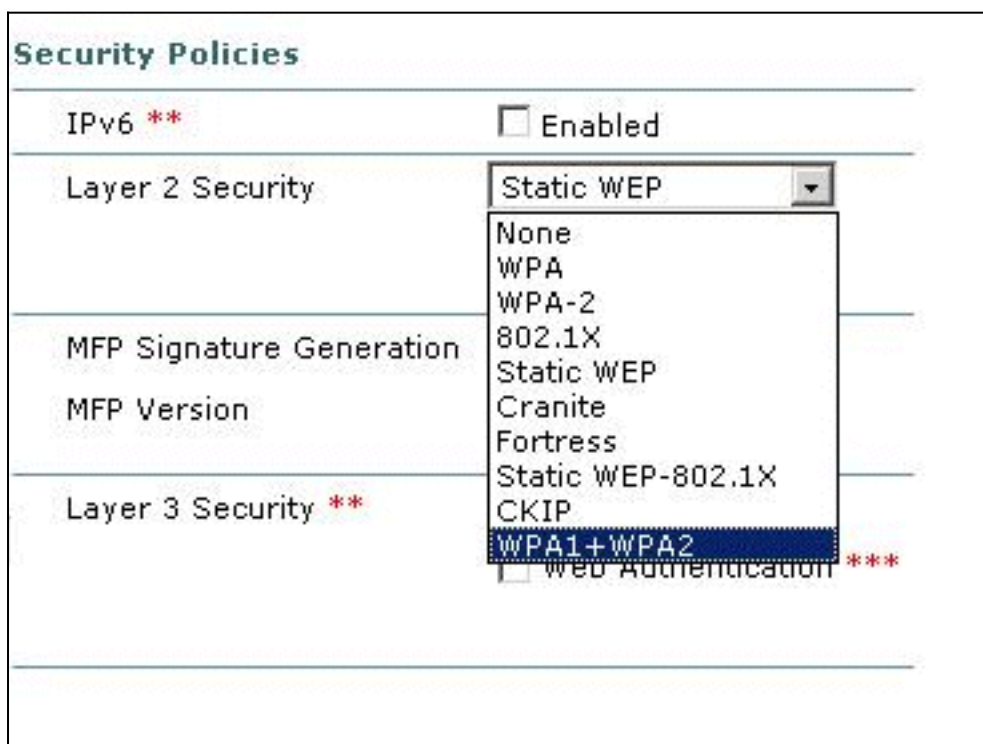
**Q. WCS で AP にテンプレートを適用すると、[Ethernet MAC Address] 列に不適切な MAC アドレスが表示されます。これは、なぜですか。**

A. これは、どのような AP を使用しているかによって異なります。1000 シリーズの AP の場合、Wireless Control System (WCS) は、イーサネット メディア アクセス制御 (MAC) とベース Radio MAC を同じものとして認識します。1130、1230、1240 シリーズの AP の場合は、実際のイーサネット MAC が表示されます。

**Q. WCS で WLAN テンプレートを作成するとき、ドロップダウンメニューに [WPA]、[WPA-2]、[WPA1+WPA2] の選択肢があります。[WPA-2] オプションを使用した場合、このテンプレートをコントローラにプッシュしようとしても失敗し、次のようなエラーが表示されました。**

**WPA2 Security Not Supported in this controller version [WPA-2] と [WPA1+WPA2] の違いを教えてください。**

A. オプションの [WPA1] と [WPA2] は 3.2 以前のリリースで使用されていました。



[WPA1] または [WPA2] のオプションは、3.2 など、以前のコントローラのリガシー サポートを目的としています。4.1 のコントローラ コードの場合、WPA の適切なオプションは

[WPA1+WPA2] です。 [WPA1+ WPA2] を選択してから、WPA の適切なパラメータを選択します。

## Q. WCS で各 AP の利用状況を取得するには、どうすればよいですか。

A. WCS は AP 単位のクライアント リストを提供していないため、各 AP の利用状況リストは取得できません。ただし、最も使用頻度の高い AP のレポートは作成可能であり、その対象 AP 数を 50 にまで拡大できます。このためには、次の手順を実行します。

1. [WCS] > [Monitor] に移動します。
2. [Reports] を選択します。
3. [Busiest Aps] をクリックします。
4. AP の数を [Top 50] に変更します。
5. 適切な期間を選択します。
6. [Generate Report] をクリックします。

このデータは、次の 3 つのいずれかの方法でエクスポートできます。

1. ウィンドウまたは受信した HTML コードからデータをコピーし、Excel またはその他のアプリケーションを使用してフォーマットします。
2. ロケーション アプリアンスを使用して、WCS で [Location] -> [Location Server] に進みます。サーバ名を選択します。[Administration] を選択します。[アセット情報のエクスポート (Export Asset information)] を選択すれば、PC/location/etc. のリストを CSV 形式で取得できます。
3. 社内のロケーション アプリケーションを構築する必要がある場合は、開発者提供の API を通じ、SOAP API を使用してデータベースに直接クエリを送信し、ロケーション アプリアンスに接続できます。

## Q. Help 3.2 にライセンス オプションがないので、WCS のライセンスを更新できません。これは、なぜですか。

A. ライセンスが有効になるのは 4.0 コードからです。WCS バージョン 3.2 にライセンスはありません。WCS ソフトウェア バージョン 4.0 では、以前のライセンス情報を使用して正しいライセンス ファイルを取得できます。

## Q. WCS でのライセンス更新方法を教えてください。

A. Cisco WCS でのライセンス更新方法については、『[WCS およびエンド ユーザ ライセンス](#)』を参照してください。

## Q. WCS に証明書をインストールすることはできますか。

A. 現時点では、WCS に証明書をインストールすることはできません。

## Q. WCS から、ユーザが実行したアクションのログを収集できますか。

A. いいえ。WCS では、ユーザアクションのアカウンティングをまだサポートしていません。WCS は機能セットとしてアカウンティングをサポートしていないので、Syslog サーバを統合できません。その代わりに、ワイヤレス LAN コントローラで Syslog サーバのサポートを有効にでき



ます。

WLC での Syslog の設定については、

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6307/products\\_configuration\\_example09186a00809a2d76.shtml](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6307/products_configuration_example09186a00809a2d76.shtml) を参照してください。

**Q. ネットワークに WCS バージョン 5.0 が導入されています。WCS 4.2.81.0 にダウングレードする必要がありますが、ダウングレードを実行する際、フロアプランと設定を維持する方法はありますか。**

A. ダウングレードする前に、WCS のデータベースをバックアップする必要があります。ダウングレード実行後に、そのバックアップを使用して WCS を復元します。このようにすれば、設定やフロアプランなどを新しいバージョンに復元できます。

WCS データベースのバックアップ方法については、該当ドキュメントの「[WCS データベースのバックアップ](#)」セクションを参照してください。

バックアップ データベースで WCS データベースを復元する方法については、該当ドキュメントの「[WCS データベースの復元](#)」セクションを参照してください。

**Q. WCS では .jpg または .bmp のオフィスフロア マップを取り組み、AP をマップに配置して障害物を描き、データポイントを取得することができます。イメージの調整（障害物の描画）後、WCS に入力された情報に基づいてヒートマップを取得し、しばらくこのマップを使用してから、誰かがマップの中央に X 線室（鉛ライニングの壁）を作った場合、どうなりますか。AP は常に RF を計測してコントローラ/WCS に報告しているので、ヒートマップに自動的にカバレッジホールが表示されますか。それとも、この障害物を描画しないとカバレッジホールは表示されませんか。**

A. カバレッジ ヒートマップは予測マップなので、ヒートマップに物理的な変更を反映するには、障害物を描画する必要があります。ヒートマップは表示のみを目的としています。カバレッジ プロファイルへの違反が生じた場合は、カバレッジ ホール アラートが発生します。プロファイル違反には、802.11bg（または a）のプロパティに基づいてコントローラに定義されているカバレッジ、ノイズ、干渉などが含まれます。たとえば、一定数のクライアントが一定の受信信号強度インジケータ（RSSI）を下回ると、カバレッジ ホール アラートが発生します。カバレッジ ホールの検出と修正の詳細については、『[Unified Wireless Network における Radio Resource Management](#)』を参照してください。

**Q. WLSE ベースのワイヤレス ネットワークから WCS に移行する計画があります。移行方法についての情報はどこで入手できますか。**

A. Cisco® Wireless Control System（WCS）として操作するためにこの[製品速報](#)がガイドラインを提供し、CiscoWorks ワイヤレス LAN ソリューション エンジン（WLSE）を移行するために必要なステップを輪郭を描きます。

**Q. Syslog サーバにアラートを送信するか、または E メールで通知を送信するように WCS を設定するには、どうすればよいですか。**

A. WCS を使用して Syslog サーバに情報を送信することはできません。[Administration] >

[Logging] を使用すると、[Administer Logging Options] ページにアクセスできます。このログイン機能は WCS ログインのみに関連するもので、Syslog 情報とは関係ありません。コントローラの Syslog 情報のログインは、[Controller] > [Management] > [Syslog] ページで行います。

E メール通知は WCS で実行できます。WCS には、クリティカル アラームの発生時にネットワーク オペレータへ通知できる、E メール通知機能が組み込まれています。現在のアラーム通知設定は、[WCS Monitor] > [All Alarms] > [Email Notification] ページで確認できます。

1. [Monitor/Alarms] を使用します。
2. コマンドのドロップダウン リストから、[Email Notification] を選択します。
3. このページにアクセスするには、[Go] をクリックします。

このページには、アラーム カテゴリとともに、クリティカル アラームの E メール通知の有効/無効の別、現在の送信元と宛先の E メール アドレス、現在の SMTP サーバが表示されます。このページでは、E メール通知を有効/無効に設定することもできます。アラーム カテゴリのいずれか、またはすべてについて、チェックボックスをオンにすると E メール通知が有効になり、オフにすると E メール通知が無効になります。また、ここから、アラーム カテゴリの E メール通知設定のページにアクセスできます。

カバレッジ ホールを除くカテゴリはどれも、アラーム重大度がクリティカルでないかぎり E メールがトリガーされません。E メール通知を使用できるのは、アラームだけです。イベントには使用できません。

注: WCS から E メールを受信できない場合は、ポート 25 がブロックされていないか確認してください。

注: 現在、WCS 管理者は、タイムアウト時や重大度など、どのようなイベントでアラームを生成するかについては制御できません。コントローラ上では、イベントのタイプ ( 管理、SNMP、トラップ制御など ) ごとに有効/無効を設定できます。

**Q. 不正な AP の排除後に、WCS で不正 AP のアラーム履歴を確認するにはどうすればよいですか。**

A. [Alarm] ページに移動します。トップ メニューから [Monitor] > [Alarms] を選択します。不正 AP が消去された場合の [Alarm] をクリックします。プルダウン メニューから [Event History] を選択し、[Go] をクリックします。このようにすると、消去される前の不正 AP のアラーム履歴が表示されます。

**Q. これまで WCS が 1 台だけの構成を使用していましたが、モニタリング用に複数の WCS サーバを使用することはできますか ( また、メイン WCS に障害が発生した場合に備えて、データベース バックアップをインポートできますか ) 。**

A. 問題なく使用できます。問題があるとすれば、読み取り機能のみの WCS システムの一方にコントローラ/AP テンプレートを配布できるかどうかという点だけです。共有ファイル システムへの DB バックアップのスケジュールを設定し、セカンダリ WCS ボックスに復元すれば、問題は生じません。

注: ライセンス情報は WCS サーバと連動しますが、DB バックアップとは連動しません。つまり、新しい WCS を構築して復元した場合、新しい WCS サーバにライセンスを入力する必要があります。

**Q. Internet Explorer ( IE ) ブラウザで WCS の図を表示するには、どうすればよい**

ですか。

A. グラフと統計情報を表示するには、Flash Player が必要です。このソフトウェアがインストールされていない場合は、インストールしてください。このソフトウェアは、[Adobe](#) の Web サイトからダウンロードできます。

**Q. 使用不能になっている AP があります。交換用の AP はいつでも設置できる状態ですが、WCS のマップが心配です。現在の AP を新しい AP と交換し、同じ名前を使用するにはどうすればよいですか。WCS マップで AP を交換する方法を教えてください。**

A. 新しい AP を設置して WLC と同期させてから、新しい AP の名前を変更します。その後、マップから最初の (元の) AP を削除し、新たに設置した AP をマップに追加します。

**Q. WCS にゲスト アカウントを設定する場合、ゲスト ユーザとローカル ネット ユーザにはどのような違いがありますか。WCS にはゲスト ユーザ用とローカル ネット ユーザ用のフィールドが両方あるのに、WLC の GUI にはゲスト ユーザ用のフィールドしかないのはなぜですか。**

A. ゲスト ユーザは webauth/guest アクセスを目的としたログオンのみ可能であるのに対し、ローカル ネット ユーザはコントローラの設定も表示できる点が異なります。WCS にローカル ネット ユーザ用とゲスト ユーザ用の両方のフィールドがあるのは、ここでゲスト ユーザを定義できるようにするためです。この定義をテンプレートとして使用し、すべてのコントローラにプッシュできます。

**Q. リモート オフィスで NAT/ファイアウォール デバイスの背後にあるコントローラは、メインサイトの WCS と通信できますか。**

A. コントローラがファイアウォールの背後にある場合は、WCS と WLC の間の SNMP 通信に使用される UDP ポート 161 と 162 が開いていることを確認します。

WLC が NAT デバイスの背後にある場合、WCS は WLC と通信できません。これはサポートされていない構成です。WCS サーバは、コントローラとの直接 IP 接続を必要とします。

**Q. Microsoft IE7 を通じて、Wireless Control System または Wireless LAN Controller の GUI インターフェイスにアクセスしようとする、必ずブラウザの証明書に関する警告が示されます。証明書をインストールして更新しようとしても、実行できません。いつも「There is a problem with this Website's security certificate (この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります)」という警告が表示されます。これは、なぜですか。**

A. これは正常な動作です。WCS は HTTPS の自己署名証明書を使用します。証明書が自己署名式であるため、Internet Explorer (IE) またはその他のブラウザは証明書を信頼できません。そのため、IE が確認できない証明書を受信しましたという意味の警告メッセージが表示されます。IE7 は証明書に関するセキュリティが強化されているので、証明書に問題があるという内容のページが表示されます。

**Q. サードパーティ製バックアップ ソフトウェアを使用した日次バックアップで、**

**WCS のデータベース ファイル solid.db がバックアップされません。これは、なぜですか。**

A. ファイル solid.db は WCS のデータベース ファイルです。このファイルはロックされているため、サードパーティ製のバックアップ プログラムで特定のファイルをバックアップすることはできません。WCS を使用すれば solid.db をバックアップできます。WCS データベースのバックアップについては、次のリンクを参照してください。

<http://cisco.com/en/US/docs/wireless/wcs/4.0/configuration/guide/wcsmain.html#wp1077130>

**Q. WCS バージョン 3.2.40.0 を使用しています。WCS 用に新しい PAK をインストールしようとしたところ、オンライン ツールから、「Please enter the host name of the server hardware that you will be installing your WCS software. The best way to determine the correct host name is to open the WCS About window found under the Help menu in WCS. Use the host name displayed in the About window in the field below. ( WCS ソフトウェアをインストールするサーバ ハードウェアのホスト名を入力してください。正しいホスト名を調べるには、WCS のヘルプ メニューにある [WCS About] ウィンドウを開きます。[About] ウィンドウに表示されているホスト名を下のフィールドに入力してください。 ) 」というメッセージが表示されました。しかし、[About] ウィンドウにホスト名が表示されません。この WCS は Windows 上にインストールされているのですか。**

A. バージョン 3.2 以前の WCS では、*Help/About this Software* に WCS サーバ システムの名前が表示されません。これは、WCS バージョン 4.0 以降のみで使用できる機能です。こより前のバージョンでホスト名を調べる場合は、DOS コマンド プロンプトで `ipconfig /all` コマンドを使用します。これにより、サーバ システムの名前が表示されます。

**Q. WCS の管理にローカル ユーザ名/パスワードではなく ACS/AD 認証を使用したいと思っています。これは可能ですか。**

A. この機能は WCS でサポートされていません。現時点で、WCS の管理に使用できるのはローカル ユーザ認証のみです。

**Q. WCS の新しいキャンパスに既存の建物を追加することはできますか。あるいは、新しいキャンパスにすべての建物/フロアを再作成しなければなりませんか。**

A. 現在のところ、新しいキャンパスに既存の建物を追加することはできません。新しいキャンパスにすべての建物/フロアを再作成する必要があります。

**Q. WLC1 と WLC2 の 2 つのコントローラがあります。WLC1 は導入済みで、クライアントにサービスを提供できるように設定されています。新しいサイトに WLC2 を導入する際に、WLC2 に WLC1 と同じ WLAN 設定を使用したいのですが、WLC1 の WLAN に使用した PSK を忘れてしまいました。PSK がわからなくても、WCS を使用して現在 (稼働中) の WLAN を WLC1 から WLC2 にコピーすることはできますか。**

A. WCS で稼働中のコントローラの設定を保存すると、PSK に従ってその WLAN のテンプレートが作成されます。これを、稼働していない別のコントローラに送信することができます。それ以

外の場合は、最初から設定するしかありません。テンプレートを送信する前に、WCS で 4.0.96.0 のコードが稼働していることを確認してください。

## Q. 冗長性を確保するため、同じネットワークに 2 台の WCS を導入することはできますか。

A. WCS はネットワーク管理ツールの 1 つなので、実際に WCS を 2 台導入することは可能です。問題は WLC 設定データベースです。一方の WCS の WLC 設定を変更すると、2 台の異なる WCS の WLC 設定データベースに違いが生じる可能性があります。これは、本当の意味での冗長ソリューションではありません。

現在推奨できるのは、夜間にバックアップを実行し、他方の WCS をスタンバイ状態にしておくことです。こうすれば、一方が停止しても夜間にバックアップしたデータベースで復元し、もう一方の WCS を稼働させることができます。

## Q. WCS と WLC の同期を確認するにはどうすればよいですか。

A. コントローラと WCS の再同期は、次の手順で実行できます。

1. [Configure] > [Controllers] に移動して、IP アドレス リストの上にあるボックスをオンにすると、すべてのコントローラが選択されます。
2. [Select a Command] ドロップダウン リストから [Save Config to Flash] を選択します。
3. [OK] をクリックします。これは、SNMP が適切に機能すること、コントローラが WCS の支持どおりに動作することを確認する、基本的なテストになります。
4. [Configure] > [Controllers] に移動して、IP アドレス リストの上にあるボックスをオンにすると、すべてのコントローラが選択されます。
5. [Select a Command] ドロップダウン リストから、[Refresh Config from Controllers] を選択します。
6. [OK] をクリックします。これで、WCS は、これまでに得たどんな情報よりもコントローラからの新情報を信用するようになります。

## Q. WCS を通じてクライアントの履歴を追跡できますか。

A. クライアントの履歴を追跡できるのはロケーション サーバだけです。その情報を WCS に取り込むことができます。ネットワークにロケーション サーバがない場合、WCS の [Monitor] > [Network Summary] ページに表示されるのはクライアント数と時間のグラフだけで、クライアントの履歴は表示されません。

## Q. WCS を通じてある AP の設定を別の AP にコピーしましたが、その AP のアクセス ポイント グループとスタティック IP アドレスが宛先 AP にコピーされませんでした。コピー手順として、WCS GUI で [Configure] > [Access Point] > [Copy and Replace AP] を使用しました。このようになった理由は何ですか。

A. バグ [CSCsi04160](#) ( [登録](#) ユーザ専用 ) が原因です。WCS の [Copy And Replace AP] 動作では、スタティック IP アドレスやアクセス ポイント グループは新しい AP にコピーされません。

回避策として実行できるのは、新しく設定された AP の [Detail] ページを手動で設定することです。

**Q. WCS にアクセスできません。デフォルトのルート ユーザ名とパスワードの組み合わせを使用してもアクセスできませんでした。パスワードを忘れてしまった場合の対処方法を教えてください。**

A. WCS 4.1 より前のバージョンでは、ルート アカウントのパスワードを忘れると、WCS へのアクセスを回復する手段はありませんでしたが、WCS 4.1 では回復可能です。

次の手順を使用してください。

1. ホスト オペレーティング システムのルート ( 管理者 ) 権限でアカウントにログオンします。
2. WCS を停止します。
3. ターミナル ウィンドウで、WCS bin フォルダ、たとえば、C:\Program Files\WCS4.1\bin などにディレクトリを変更します。
4. コマンド `passwd root-user <NEWPASSWORD>` を入力します。「passwd -h」を使用するとヘルプが表示されます。
5. WCS を起動します。注: バグ [CSCsg01946](#) ( [登録](#) ユーザ専用 ) にも同じ手順が示されています。

**Q. クライアント ステータスのポーリングについて簡単に説明してください。どうすれば WCS でこの機能を設定できますか。**

A. ロケーション サーバは、クライアントのロケーション情報を追跡するため、定期的にクライアントのポーリングを実行します。ロケーション サーバがポーリングを実行して、クライアントのロケーション情報を更新する頻度を設定できます。デフォルトで、ロケーション サーバは 15 分ごとに自動的にポーリングを実行します。情報更新の最大間隔は 2 分です。

設定方法については、「[クライアント ステータスのポーリングの設定](#)」を参照してください。

クライアント統計のポーリング タスクが一定間隔で実行されるように、スケジュールを設定することもできます。WCS GUI で、[Administration] > [Scheduled Tasks] > [Client Status Poll] に移動します。ここでポーリング間隔を設定できます。

**Q. 追跡された要素がロケーション サーバに保持される時間を、WCS から変更できますか。**

A. はい。追跡された要素がロケーション サーバに保持される時間は、WCS で変更できます。

1. WCS で [Location] > [Location Servers] を選択します。
2. [Location server name] を選択します。
3. 表示されたページで、[Administration] > [Advanced Parameters] を選択します。
4. [Advanced Parameters] から、[Absent Data Cleanup Interval] を選択します。
5. この間隔を適切な値に変更することで、追跡された要素がロケーション サーバに保持される時間を変更できます。

**Q. WCS プランニング モードで、インポートしたマップに壁、扉、窓などの障害物が反映されません。このような場合、WCS プランニング モードで適切な AP 配置の計画を進めるにはどうすればよいですか。**

A. WCS プランニング モードでは、マップ上に架空のアクセス ポイントを配置するとカバレッジ領域が表示できるようになるので、領域をカバーするのに必要なアクセス ポイント数を計算できます。プランニング モードでは、各プロトコル ( 802.11a または 802.11 b/g ) に指定されたスループットに基づき、ネットワークの最適カバレッジを提供するために必要なアクセス ポイント数の合計が計算されます。

WCS にインポートされたマップに障害物を表示するには、WCS で対応するマップを選択します。右上隅にあるプルダウン メニューから [Planning Mode] を選択し、[Go] をクリックします。[Map Editor] をクリックします。ここで、障害物のタイプを選択し、マップの障害物の追加、移動、削除を実行できます。

Q. WLAN インフラストラクチャに 2 台の WCS を使用したいと思います。1 台はモニタ専用で、もう 1 台はモニタと設定に使用します。両方の WCS で同じコントローラ セットを管理またはモニタしたいのですが、これはサポートされていますか。

A. はい。可能です。両方で設定することもできます。ただし、2 台目の WCS で設定する前に必ず WLC からの設定をリフレッシュしてください。

Q. WCS のアラームとイベントの詳細は、どこで入手できますか。

A. WCS のアラームとイベントのメッセージについては、<http://www.cisco.com/en/US/docs/wireless/wcs/4.1/configuration/guide/wcsevent.html> を参照してください。

Q. WCS に複数のユーザをインポートするには、「ゲスト ユーザ テンプレートの設定」に記載されている手順に従う必要がありますが、WCS でゲスト ユーザのバルク インポートに CSV ファイルを使用する場合の、[life time] フィールドの最大時間と最小時間の値を教えてください。

A. [life time] フィールドの値の範囲は 1 分 ~ 35 週間です。免責条項の最大長は 255 文字で、使用できる文字は英数字の文字列と、改行、カンマ、ピリオドなどの特殊文字です。

Q. WCS で IGMP スヌーピングを設定できますか。

A. はい。IGMP は WCS バージョン 6.0 で設定できます。WCS での IGMP スヌーピングの設定については、『[Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 6.0](#)』の「[IGMP スヌーピングの設定](#)」を参照してください。

## 関連情報

- [Cisco Wireless Services Module と Wireless Control System の設定](#)
- [Wireless Control System のトラブルシューティング](#)
- [Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 4.0](#)
- [ワイヤレスに関するサポート ページ](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)